



ハチミツ

金丸弘美
食総合プロデューサー

我が家に二十六種類のハチミツがある。小さなスプーンで少しずつ味わってみると、その甘みやうまみや舌触りが、それぞれに違うことに驚く。リンゴのハチミツは、ほのかな青リンゴのような甘酸っぱいよい香りがする。甘みが強い。リンゴの種類によっても味は異なるのだという。

とちの花のハチミツは、まろやかでなめらか。ほんのり酸味があつて、それがぐつと甘みを引き立てる。栃の木は落葉広葉樹。山間地で大切にされた木で、ハチミツ採取には昔からかかせない木であつたという。小さな房の可愛らしい花が咲く。蕎麦のハチミツは癖があると聞いてはいたが、

確かに見ためから違つて、多くのハチミツが琥珀色なのに対して濃いこげ茶色。白い可憐な花からは想像もつかない色合いだが、蕎麦の実にそっくりの色合いなのである。漢方薬のような香りと味がする。

ゆりは透明感があり、シンプルでやさしい味がある。白い優雅な花そのままという感じだ。

他に、桜の花、萩の花、木イチゴの花、くりの木、ビワの木、いたどり、みかん、菩提樹、金柑、あかしあ、あざみ、菜の花などがある。

なかでもちよつと異色なのが、日本の在来種のニホンミツバチのハチミツである。色が濃く、酸味、うまみ、甘みなど複雑な味をもっている。樹

液のような香りがする。

にこり蜜という巣までをまるごと搾つたハチミツがあり、こちらはさらに色が濃く、ざらざらとした触感がある。

ハチミツといつても、さまざまな味わいと香りがあることに驚く。色とりどりの花があるわけだから、その数だけ蜜があつていいわけだ。

我が家ではもっぱら使い方はシンプルで、プレーンのヨーグルトにかけて食べている。ときどき楽しんでるのは、何種類かのチーズ、それも羊とか青カビとか、癖のあるものにかけていただくことで、甘さと香りが、まじりあつて、とても食べやすくなる。

チーズとハチミツの組み合わせは、海外でも若い人の間で人気だという。そんなマリアージュ(結婚の意から食材同士の相性に用いられる)の楽しさを教えてくれたのは、イタリアのスローフード食料学大学大学院を出てフードリテラシー研究会を主宰している柴田香織さんからである。彼女とはイタリアのスローフードのイベントで知り合った。

イタリアのチーズのイベントではワークシヨップ形式の講座があつて圧倒された。チーズの歴史的背景から家畜の違い、熟成法から、味わい香りまで学ぶことに驚いたが、その学習がとても面白い。まるで科学の時間のようで興味がつきないの

だ。いくつものチーズの種類を味わって、さらに何種類かのワインと相性を観てみるということも講座で学ぶ。

そんなことを知って、ついつい色々なハチミツを購入してきたわけだ。その場所というのは岩手県盛岡市にある藤原養蜂場である。この店舗の店頭にはずらりと並んだハチミツをひととおり求めたら二十六種類もあったというわけだ。

藤原養蜂場は明治期の創業。現在、ご主人は三代目の藤原誠太さんである。店舗にもミツバチが飼育されている。表の天井に大きな入口があって、ガラス張りの養蜂ケースから、ミツバチの生音がわかるようになっていいる。

「ちょっと、養蜂場にご案内しましょう」と、連れて行ってもらったのが、すぐ近くにある養蜂場、さらにそこから車で三十分走った山間地の場所である。藤原さんは、熱心に丁寧なミツバチのことを話してくださる。

実は、国内のほとんどのハチミツを採取しているのは明治期に輸入された西洋ミツバチだという。一方で、日本の古来のニホンミツバチという在来種がいるということだった。

ニホンミツバチの巣箱を開けて巣ができた木枠を取り出して、群がるハチに「そっと触ってみてください」という。触ると、うごめくハチから温かい体温が伝わり、なんだか優しい気持ちになる。「ニホンミツバチは、ほとんど襲うことはありません」とのこと。性質も温厚で、季節に順応し、病気にも強いとのことだった。

最近、ミツバチが突然失踪し激減するという問題がニュースで飛び交っているが、藤原養蜂場でも異変が起こっているという。おそらくここ何年か前から使われ始めた新しい殺虫剤が原因だろうという。西洋ミツバチの死骸がいくつもあった。と



ニホンミツバチの巣を持つ藤原誠太さん

ころが、ニホンミツバチは被害が少ない。藤原さんによると農薬を散布したところには、危険を感じて近づかないような性質をもち合わせているようだという。

ニホンミツバチは、蜜の量も少なく、木の洞などに巣を作り、人工的に飼育するのが難しいとされてきたが、それを成功させて、全国的なニホンミツバチの愛好会を作ったのが藤原さんだ。

藤原さんの養蜂は、今、思わぬところで注目をあびている。

銀座のビルの屋上でミツバチが飼われて、その蜜から銀座周辺の店で料理やケーキに用いられているという「ギンザミツバチプロジェクト」が話題になっているが、そのミツバチの飼育を指導しているのが藤原誠太さんなのである。

「ミツバチは優しい。環境の指標にもなるデリケートな昆虫なのです。花の受粉を助け、農業や自然にとって大切な存在。そのことを知ってほしいんです」

藤原さんの目は少年のように輝いていた。